

# 緑が丘



—「自分でできる」「みんなと決める」—  
～今日も「学校が楽しかった」～

令和7年 12月 1日発行 三木市立緑が丘小学校

## 北風と太陽 ～読書と自分と「ちょっと一息」～

2025年も最後の月、12月です。風邪やインフルエンザ等で体調を崩さず、みんなで元気に締めくりたいと思います。

さて、「北風と太陽」というイソップ物語があります。

【あらすじ】ある日、旅人が外を歩いています。北風と太陽は旅人のマントを先に脱がせる勝負をすることになりました。北風はどうか旅人のマントを脱がせようと、力いっぱい吹きつけます。旅人はマントを固く巻き付け、さらに風を防ぐために首をすくめます。太陽は穏やかな光を旅人に降り注ぎ、旅人は段々と暑さを感じ始めます。暑さに耐えられなくなった旅人は、自然とマントを脱ぎ、のんびりと歩きはじめます。

このストーリーは、お話としても面白いのですが、今の私たちの日常生活の様々な場面に応用できます。「力で圧をかける」よりも「温かさや穏やかな促し」「力だけでは動かせない→優しさが人を促す」「それぞれの役割を果たすこと」「やりすぎることとやりきること」等々…。おかれる立場や環境によって感じ方も違います。例えば、学校の授業、地域のつながり、家族のコミュニケーションなど、日常のささやかなやりとりはどうでしょう。

今の自分の言動は「北風?」「太陽?」……。できるならば、相手が自分から動きたくなる環境、どうすれば自発的に行動してくれるかについて、誰もが考えたことがあるのではないのでしょうか。言葉の選び方や接し方等、ふりかえるのもよいかもかもしれません。

もう1冊「12の月のおくりもの(スロバキア民謡 再話:内田莉沙子 画:丸木俊)」は、私が子どもの頃に読んでもらい、心に残っているお話です。

【あらすじ】寒い冬の日に森でスマイルを摘んでくるようにと命じられた娘マルーシカが、大きなたき火を囲んだ12の月の精に出会います。1月の精に変わって3月の精が杖をふるると…続いて、6月の精が杖をふるると…9月の精が杖をふるると…。森の季節が動きます。

これを原案に「森は生きている」という戯曲にもなっています。ストーリーは勸善懲惡でわかりやすく、12人の森の精の言葉、力、変わる季節にワクワクしたことを覚えています。

夜が長く寒いこの季節(含:冬休み)は、温かい部屋の中で読書が最適です。動画もいいですが、ページにある絵や言葉からのイメージは、ひとりひとり違い、無限に広がります。スマホ(タブレット等)を横において、1人で、あるいは親子で読書で一息というのはいかがでしょうか?どうしても、時間に追われる毎日。お気に入りの1冊をはさんと、ぜひ、たくさんのおしゃべりをしてください。そんな時間が、慌ただしい年末年始を迎えるこの時期、「いい1年だったなあ。また新しい年、1月からがんばろう」と感じられる一助に、そして掲載詩の「おひさま」のような役割にと願っています。(校長 佐野 順子)

ひなたぼっこ  
こねずみ しゅん

でっかい うちゅうの なかから  
ちっぽけな こねずみ いっぴき  
みつけだして  
おでこから しっぽのさきまで  
あたためて くれるのね  
……………

おひさま  
ぼく  
ドキドキするほど うれしい



くどうなおこ『のはらうた』より

